



ハカルワカル広場だより

八王子市民放射能測定室

第 16 号

2016. 2. 20発行

発行元 八王子市民放射能測定室 ハカルワカル広場
〒192-0053 八王子市八幡町 5-11 八中ビル2F
URL: <http://hachisoku.org> E-mail: hachisoku@gmail.com 電話: 042-686-0820
郵便振替口座: 00180-8-290904 八王子市民放射能測定室

映画『核分裂過程』の上映はこうして始まった

小林茂樹・大木有子

『核分裂過程』に出会ったのは28年前。ある映画祭の受賞作品の1本として友人と見て、大変な感動とショックを受けた。フィルムを借りて「原発とめよう2万人行動」の日の夜に上映会を開いた。1988年4月、チェルノブイリ原発事故の実態が日本に伝えられ、「原発止めよう」の声が全国にうねりのように広がり、1万人と呼びかけた日に2万人が日比谷に集まった日だった。反響が大きく、上映の問い合わせを何件も受けた。しかし著作権がないのでフィルムはドイツに返されてしまった。青森県六ヶ所村には映画と同じ再処理工場が建設されようとしている。自分たちで映画を輸入し上映活動をしようと考えた。

資金は全国の反原発脱原発のグループや個人から借りた。監督に直接思いを伝え、非営利上映権を得ることができた。字幕は7人のメンバーが、それぞれ自分の魅かれる言葉を発する登場人物を担当した。監督の知り合いで大学のドイツ語の先生も協力してくれた。一つ一つの言葉について話し合い、半年余りをかけた。映画の力が全てを支えた。

再処理工場に反対する中で、自分の殻を破り変わっていったヴァッカーズドルフの人々。民主主義とは何かを問い、言葉を紡ぎ出す。その姿は普遍性を持って私達の心を揺さぶった。そして支援の若者たち。数万人のデモ。その運動の豊かさに目を見張った。なぜ、あのような運動が可能になったのだろうか？ヴァッカーズドルフの運動には、1970年代から始まるドイツ反原発運動の歴史が息づいていた。また戦争責任と向き合った戦後ドイツの歴史も反映されていた。

『核分裂過程』の原題は“SPALTPROZESSE (分裂する過程)”。核の分裂と人間社会の分裂・分断の両方にかかる。工場を取り囲む「鉄柵」は分断の象徴である。映画が作られたのは鉄柵が張り巡らされ州政府の弾圧が激しさを増す時期だった。けれども、人々も映画もありったけの想像力でその鉄柵を超えようとした。

1989年、字幕作りの最中に「建設中止」のニュースが入ってきた。そのニュースを携えて、映画の上映を開始した。映画を観た人が次は自分たちで上映会を開く、という形で『核分裂過程』は「連鎖反応」するように全国で上映されていった。



『核分裂過程』意見交流会概要



- H: 今の日本とぴったり合っている映画が、30 年も前にあったということが信じられません。民主主義ってなんだ？という今にぴったりの言葉が出てくるし、沖縄、原発の再稼働、戦争法、全てが当てはまる感じがして、鳥肌が立つような思いで観ていました。
- K: 原子力の問題というのは結局、政治の問題でもあると思うので、普通の市民が立ち上がったから止められたというのも大きいと思います。
- K: 奥様方のしたたかに権力と闘う感じに共鳴しました。原発反対、戦争法反対というのではなく、これは私たちの平穏な暮らしを守る「権利のための運動なんだ」ということを周りに伝えて行けばいいのかなと思いました。
- I: 映画の中で「こんなの独裁民主制だ」と言っていましたが、まさに今、独裁民主制に私たちは生きているのではないかと思います。テレビは本当のことを伝えないとわかり、大事なものが何かわかったら、闘わなければいけないのだと思いました。
- T: 最後の 3 分で、工場建設が止まった原因が、フランスに再処理に出した方が安いという金の問題だとわかりましたが、事実は市民の運動で止めざるを得なくなったのだと思います。結果としてドイツは今、原発を止めるという話です。それが日本ではやっと今、動き始めた。
- U: よく、ドイツに学ばなくてはいけないと言われますが、今のドイツというよりも、この頃のドイツ、原発推進で、平気で民衆を弾圧していた、そういうドイツが実は 30 年前にあって、でも住民たちは立ち上がって、言う通りにはならなかった。その闘いがあった初めて、今のドイツがあるのだということを実感しました。
- 会場: 質問です。フランスの再処理工場から今度は北ドイツのゴアレーベンの最終処分場に廃棄物を運ぶにあたって激しい反対運動が起こっていますが、ドイツ各地の核施設からの廃棄物をフランスに搬送するにあたっての住民の反対運動はまだ続いているのでしょうか。
- K: ゴアレーベンの反対運動が始まったのは 1970 年代です。その頃から 4 万人ぐらいの人たちが街頭に出たり、線路に寝そべったりして通さないなどの活動を、今でもずっと、子供の代まで続けています。
- O: ドイツでは再処理はしないということを決定したので、今はドイツからフランスに使用済み核燃料を送ることはやっていない。ただ、すでに送られているものは返ってくるので、それを止めているということです。
- K: この映画はヴァッカーズドルフの再処理工場のことを描いたのですが、それ以前からドイツでは各地で原発反対の運動が続いていました。1975 年頃、ヴィール村で反対運動が始まり、ブロックドルフ原発や他の原子力施設候補地での反対運動の蓄積があって、その流れ

の中で再処理工場建設が止まり、次にカルカーというところの高速増殖炉も止まった。

S: ではここから、何ができるのか、どういう行動ができるのかというテーマに移ります。

O: ヴァッカーズドルフで行われていたのは直接行動です。投票によって議員を選ぶことは重要ですが、それで全部任せてしまうということはいらない。選んだ議員、政治家たちが自分たちの生活を脅かすようなことをしている時には、それに対して異議申し立てを表明する、直接的に訴えるということが重要です。また直接行動だけではなく、自分たちの中から議員を送り出して、いろいろな形で議論する場に自分たちの意見を反映させていく行動も行う。ドイツではその両方のことをずっとやってきた。直接行動の中では、例えば外から来る人たちをどう受け入れるか、若い人たちが暴力的になっていく、そのことを地元の人たちはどう考えようか、それがマスコミに取り上げられた時にどうやって守っていくか、そういうことをとても真剣に考えて、一つ一つ議論する中で答えを出して積み上げ、そういう蓄積を、外にも伝わるような形で行ってきた。そのことを、私たちはもう少し学びたいと感じました。

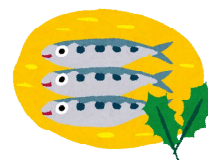
K: 一人一人が自分の中にあるものをやるしかないと思います。映画の中に抵抗権（注）という言葉が2回ほど出てきましたが、これは1968年に初めてドイツ基本法に付け加えられた。その頃何が起こっていたかという、日本では学生運動、パリの五月革命、プラハの春、世界の若者たちが動き出したその時期に、ドイツ基本法が改正されて抵抗権が入った。それと同時に緊急事態法、つまり国に何かがあった時に市民の自由を拘束できるものとセットになっていたということはちょっと考えた方がよい。だからこそ映画の中で市民は、これは抵抗権の問題なんだ、つまり自分たちの存在を脅かすようなものだ、というのだと思います。

(そのほか会場から、いろいろな活動のご紹介やご意見をいただきました。)

S: 一人一人が行動し、続けるということが大事なのだと思いました。上映の最後にも出てきましたが、「何もできないなんて思わないこと」、この言葉を忘れずに今後活動していきたいと思います。

(注) ドイツ『抵抗権』ドイツ連邦共和国基本法第20条4項(1968年6月の改正で追加された)
政府が憲法と国民に背き、これを正す手段が他に一切ない場合に国民は抵抗権を発動できる。

(ドイツでは、ナチ党が基本的人権保護規定を無効化し、憲法体制を崩壊させた反省から「戦う民主主義」の概念が生まれた。1968年、西ドイツでは学生、市民、労働者による既存の政治体制に対する大規模な抗議運動が起こり、戦う民主主義の実現理念として抵抗権が基本法に明文化された。)





ハかってワかった話



二宮 志郎

2015 年のまとめデータから

昨年一年間の測定データをまとめて、開室以来のデータに合わせて4年分のデータをまとめてみました。測定値に関しては、「土」、「きのこ類」、「きのこ除く食品」の3つのカテゴリーに分けてまとめています。

測定検体数はなんとか月 30 を維持

グラフ 1 に4年間の月別測定数の変遷を示しています。年間で平均にした数字の年別変化がグラフ 2 です。

昨年の同時期に「測定数の減少はなんとか底打ちにさせて、その底の部分の数字を息の長い活動で支えていけたら…」ということを書いたのですが、なんとかこの1年は支えることができたようです。1ヶ月あたりの測定数で、2014年の37から2015年は35と、微減と言える範囲にとどめています。グラフ 3 で検体種類別の測定検体数に注目しても、その傾向は覗えます。「きのこ除く食品」が3年間一直線に減ってきていただけに、この種の測定がほとんどなくなっていくことが危惧されていましたが、2015年の結果ではその傾向を逃れることができています。

ただ、「きのこ除く食品」は、Cs134 検出率が4%にまで下がってきていることと、検出されても限界値近辺の微量でしかないという事実があります。私達は、観察した事実をありのまま伝えていきますから「食品の安全性が心配だから」ということでの測定依頼が減っていくことは間違いないでしょう。2016年にどのくらいの測定依頼があるか、あまり楽観的な見通しはできないと言えます。

土の高い検出率は変化なし

グラフ 4 を見れば土に関する Cs137 の検出率は90%前後でほとんど変化していません。放射性

セシウムで汚れた土が身の回りに関するにについては、誰も否定できない事実です。後は、それをどう受け止めて、どう考えるか、という様な問題になってきます。そういう意味では、「測定」という行為が占めていた重要性が小さくなってきているのは否定しがたいところです。

土の測定には、「福島原発事故による放射能汚染があったことを忘れない」という点では引き続き大きな意味があります。理屈ではわかっても、実際に「いかに減らないものであるのか」ということを実感するには、身近なところにある土を測定してみるのが一番です。ハカルワカルでは引き続き身近な場所の定点測定を呼びかけていくつもりです。

土の検出値平均が上がってしまった謎

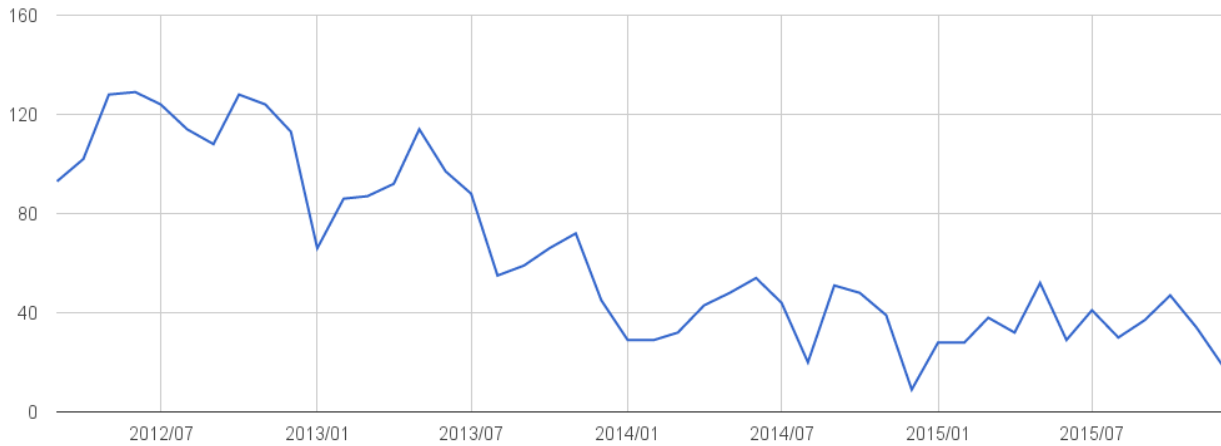
最初の2年間は、汚染の高いところを探して測定依頼しに来る傾向が強かったため土の検出値平均が高く出ていたようでしたが、それが終わって2014年ころからは同じようなレベルの数字で推移するだろうと見ていました。グラフ 5 を見ると、2015年の結果は2014年に比べて2倍近い高い数値になっていることがわかります。細かくデータを調べると、汚染値の上位10検体程度がかなり高めの数値であったために平均値を上げてしまったようです。「汚染の高いところを探してもってくる」という傾向が復活したとも見れますが、検体数が少ないので「たまたま」そういう結果が出たと見ておいた方がいいでしょう。

「測定」という行為の持つ意味がいろいろ変わっていくのはいいのですが、「脱原発」が遠く一方なのが何とも悲しい限りです。「どこかで流れは変えられるはずで、変えるのは私達である」、昨年の「核分裂過程」上映会でも学びましたが、あきらめないことです。

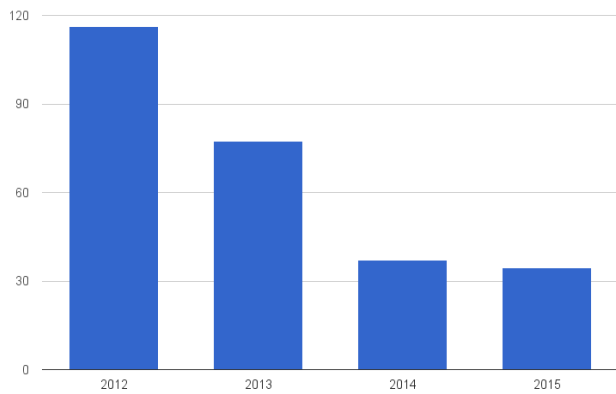


測定年	1 月あたり検体数		土			きのこ類			きのこ除く食品		
	検体数	1 月あたり検体数	検体数	Cs137 検出率 (%)	Cs137 検出値平均 (Bq/kg)	検体数	Cs137 検出率 (%)	Cs137 検出値平均 (Bq/kg)	検体数	Cs137 検出率 (%)	Cs137 検出値平均 (Bq/kg)
2012	1280	116	264	92	288	69	65	90	778	14	34
2013	927	77	246	91	315	75	79	59	490	13	30
2014	446	37	122	89	95	32	63	75	193	10	29
2015	415	35	87	91	184	29	59	36	164	4	15

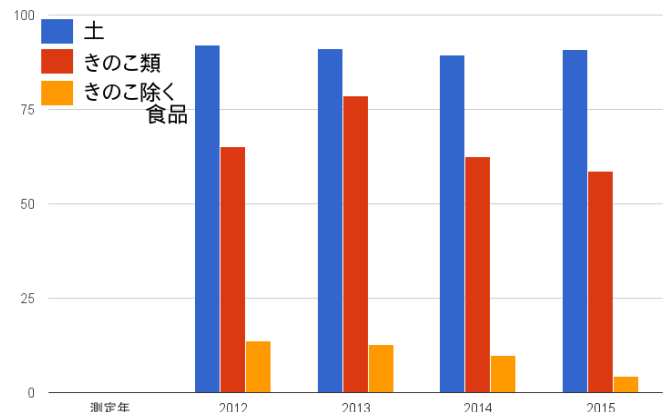
表 1 4 年間の全測定結果まとめ



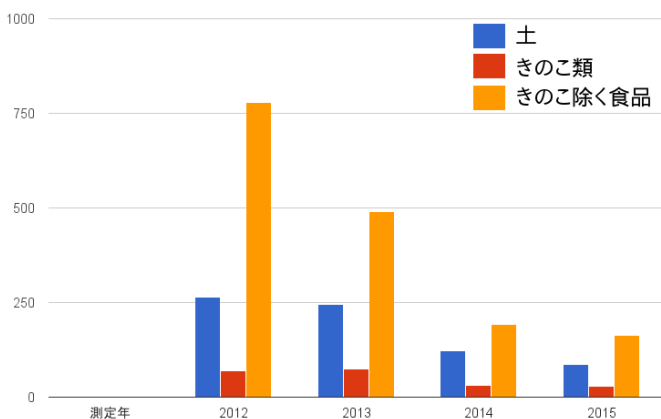
グラフ 1 月別測定検体数



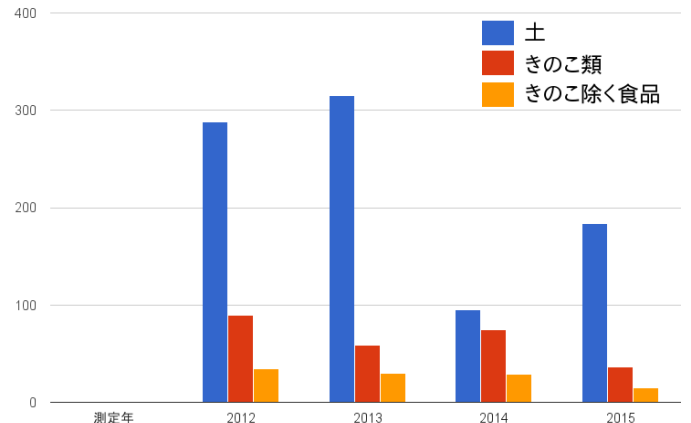
グラフ 2 1ヶ月あたり平均測定検体数



グラフ 4 Cs137 検出率 (%)



グラフ 3 種類別検体数



グラフ 5 Cs137 検出値平均 (Bq/kg)

維持会員の声

維持会員

2011年3月11日の東日本大震災に続く福島原発事故は大きな衝撃でした。アメリカ・ミネソタ州に住んでおりますので、遠くから母国のことを案ずるといってもどかしさを感じております。何か行動をせねばと、帰国するたびに金曜日の官邸前の原発反対集会に参加するようになりました。そこで大学の同窓のグループができ、メールのやり取りをしているうち、西田さんを通じて「ハカルワカル広場」「金八デモ」の存在を知り、維持会員となりました。「日本と原発」の映画会、「浜岡原発見学ツアー」にも参加しました。地震多発国の日本で、しかも、あの悲惨な福島原発事故があったにもかかわらず、原発再稼働が次々に進められようとしており、信じられないことです。

被災にあわれた方の苦しみは続いているのに、忘れさせようというキャンペーンが行われ、福島原発事故はなかったかのような政策が続いています。その中で、脱原発社会の実現を目標に、地道な活動を続けておられる「ハカルワカル広場」を応援したいと思いました。遠いので、なかなか活動に加われず、せめて資金面でと思い微力ながら協力させていただいています。どうぞこれからも細くても長く続けてくださいますよう、応援しています。

2015年を振り返って

早いもので、2012年1月のハカルワカル広場のオープンから4年が経ちました。福島原発事故から5年、しかし、事故の収束は一向に進まず、被災者の方の状況は悪くなる一方です。あらゆる保障は2017年3月をもって打ち切れ、線量の高い地域への帰還が推し進められています。一方で、「福島原発事故を忘れた」ように、人々は生きています。

そんな風潮に抗うように、ハカルワカルは2015年も測定活動を続け、さまざまなイベントを行い、「放射能の危険を忘れないで！」と訴えてきました。「日本と原発」の上映会に始まる4回のハカルワカル映画会。また、4月の浜岡原発見学ツアー、測定活動では、ゼオライトの測定をモニターに依頼する「微量放射能漏れ監視プロジェクト」など、新しい企画を立ち上げ、継続しています。

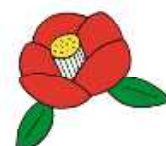
浜岡原発見学ツアーでは、現地で原発反対運動をされている伊藤さんご夫妻とそのグループの方にご案内いただき、浜岡原発が砂上に存し、市街地に隣接していることをつぶさに見学。危険性を実感しました。また参加者の方々の「脱原発への熱い思い」を知ることも



11月29日北野市民センターホールでの「核分裂過程」の上映会は大きな反響を呼びました。この映画の場面となっている30年前のドイツが、現在の日本の状況、民主主義の危機と酷似していたからです。そこで、普通の主婦が、牧師が、再処理工場建設反対の闘いに立ち上がり、「あなたたちはどうするの？」と問いかけてくる映画でした。

2015年を振り返って、もう一つの特筆すべきことは、お茶会、デンキエラベル勉強会が充実したことでした。お茶会では測定データの学習とともに、毎回、「世界の原発」、「初期被ばくについて」、また「ドイツの抵抗権について」などのテーマを決め、学習を深めました。デンキエラベル勉強会では、今年4月からの電力自由化にむけ、豊富な資料と情報を提供し、多くの参加者がありました。

また、ハカルワカルだよりチームをはじめ、イベントチームも、会計チームも新しいスタッフを迎え、より充実した活動ができた2015年でした。これらの活動も維持会員の皆様のサポートがあってこそこの活動です。これからも、脱原発社会の実現のため、放射能の危険性を知らせる活動を長く継続していきたいと思えます。心を合わせて頑張りましょう！



あのとき

東京電力は 2011 年 3 月 22 日、原発近くで採取した海水から法令で定める濃度限度の 126 倍にあたるヨウ素 131 を検出したと発表しました。海水から放射性物質が検出されたのはこれが初めて。その時小出裕章氏は「海にも影響が出るとは思っていたが、値の高さに驚いた」と話しています。今回はその 4 日後の記事。放射能濃度は「法律で定められている値の～倍」としか書かれていないので何ベクレルだったのかがわかりませんが、東京新聞を見てみると「法令で定める濃度限度の約 1250 倍、1 ミリリットル当たり 50 ベクレル」となっていました。



2011 年 3 月 26 日 毎日新聞夕刊





測定室からのご報告



* 2016 年総会報告

2月6日(土)、2016年総会を開催しました。31人の会員の方にご参加いただき、2015年度活動報告、決算報告、また、2016年度活動方針、予算を報告、提案、ご了承いただきました。また、事務局から総会のご意見を聞きたいと出された、「原発問題を超越する立憲主義、民主主義、平和の問題についての他団体からの(団体としての)署名要請も、原発の問題と根は共通であるとして、事務局判断で前向きに対応していく」というご理解をいただきました。

「総会って、パーティでしょ!」と言う方もいて、一連の議題が終わると、手作りの煮物、検体の(不検出!)大学芋、手挽きのコーヒーなどで、さながらパーティ。和気あいの雰囲気の中で、電力自由化の問題などを議論し、また、脱原発社会の実現に向け、放射能の危険性を訴えて行こうと確認し、盛況のうちに終了しました。皆様、ありがとうございました。(事務局一同)

* 第12回ハカルワカル映画会「核分裂過程」を2015年11月29日、北野市民センターホールにて上映。チケット販売数202枚。詳細はこの会報のP.1~3に掲載。

上映後のパネルディスカッションで映画を深く掘り下げ、好評でした。

* 定例お茶会

11/7…「ナミビアのウラン採掘ラッシュ」鑑賞 日本語字幕ハカルワカル作成

12/5…「ドイツの再処理工場ストップの歴史的背景」、「抵抗権」について

1/16…「福島への帰還政策について」



これからの予定



* 第2回浜岡原発見学ツアー 4月17日(日)

(詳細は同封のチラシ参照)

昨年に引き続き、浜岡原発見学ツアーを行います。

先着順受付(第1次締切2月29日)。お申し込みはお早めに。現地で反対運動をされている方の案内で見学。と同時に、その方たちとの交流を深めます。浜岡原発も着々と再稼働への準備がされています。

* 定例お茶会 各10時~

3月5日(土)…デンキエラベル勉強会

皆様の強いご要望を受け、4月からの電力自由化に向け、最新の情報と資料を提供します。

4月2日(土)…再稼働についての学習会

5月7日(土)…テーマ未定



編集後記

寒さの中にも春を感じるようになりました。季節はめぐり、福島原発事故から5年が過ぎようとしています。続けることの難しさと同時に、それでも起きたことを忘れない、続ける!それが大事なのではと感じるこの頃です。

「ハカルワカルだより」の編集においてレイアウトを担当させて頂いています。読みやすさを心がけてこれからもがんばりますので、よろしくお願い致します。